

| 生育過程 | 重点作業 | 月 | 旬 | 対象病虫害 | 薬剤と濃度 | 注意事項 |
|----------|--|--------|---|----------------------------------|--|---|
| 開花終り | | 1 | | | | |
| 春枝伸長始め | 寒害の防止 春肥の施用(20%) 苗木の植え付け 摘果と袋かけ | 2 3 | | 灰斑病(腐敗防止) | ベルコート水和剤 1000倍 またはトップジンM水和剤 1000倍 | ・袋かけ前に散布する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">肥料(年間必要窒素成分:10a当たり) 5年生:10kg 10年生:17kg 20年生:30kg</div> |
| | 草刈り、敷草 | 4 | | | | |
| 果実肥大盛期 | 夏肥施用(30%) 収穫、出荷 | 5 | | | | ・樹勢回復を図るため肥料は収穫直前に施用する。 |
| 収穫期 | 間伐 | 6 | 上 | 灰斑病(腐敗防止) がんしゅ病 ナシメシクイ | 加ミノルト- 1000倍 またはコイトDF 1000倍 クワノ混用 200倍 パダンSG水溶剤 1500倍 | ・収穫直後に早目に散布する。 |
| | 誘引 | | 中 | | | |
| 夏枝伸長始め | 整枝・剪定 芽かき 草刈り・敷草 | 7 | 中 | がんしゅ病 灰斑病(腐敗防止) ナシメシクイ | 加ミノルト- 1000倍 またはコイトDF 1000倍 クワノ混用 200倍 パダンSG水溶剤 1500倍 | ・芽かきの後にごんしゅ病が発生しやすいので、芽かき直後に散布する。 ・カミキリムシは7~9月園内を見まわり、食入幼虫の捕殺につとめる。 ・アブラムシ発生園ではアドマイヤーフロアブル2000倍を散布する。 |
| 生理的花芽分化期 | 土壌改良剤の施用 深耕と有機物の施用 秋肥施用(50%) | 8 | 上 | ナシメシクイ (サンホセカイガラムシ) | マシン油乳剤(97%) 100倍 | ・堆肥を10aあたり2t以上、スポット施用 *未熟堆肥はもんば病の発生につながるの で注意する。 ・セルカ2号を10a当り5~10袋施用。 ・石灰資材と施肥は10日以上間隔をあける ・マシン油乳剤は樹勢が弱った樹には散布 しない。 *マシン油乳剤の散布は加ミノルト-また コイトDFと約1ヶ月間隔をあける。 |
| 花蕾開始期 | 整枝・剪定 芽かき 防風樹の管理 | 9 | | がんしゅ病 灰斑病(腐敗防止) ナシメシクイ | 加ミノルト- 1000倍 またはコイトDF 1000倍 クワノ混用 200倍 パダンSG水溶剤 1500倍 | ・芽かきや剪定、台風後に、がんしゅ病が 発生しやすいので、必ず散布する。 ・寒害防止のため、防風樹はすそ枝の刈り 込みを行う。 ・通風、採光をよくし、樹勢強化に努める。 |
| 秋枝伸長始め | 摘房・摘蕾 寒肥の施用 | 10 | | | | ・スリップス・小蛾類幼虫対策として周囲の 除草を行う。 |
| 開花始め | 植付けの準備 敷わら、敷草 | 11 | | たてぼや病 灰斑病・灰色かび病 (腐敗防止) | サンマイト水和剤 3000倍 ベルコート水和剤 1000倍 またはトップジンM水和剤 1000倍 | ・アブラムシ発生園ではアドマイヤーフロア ブル2000倍を散布する。 |
| | | 12 | | 灰斑病・灰色かび病 (腐敗防止) | ベルコート水和剤 1000倍 またはトップジンM水和剤 1000倍 | ・ビワサビダニ多発園ではジマダ化水和剤 600倍を散布する。 ・満開時に散布する。 |
| 満開期 | | | | | | |

農薬使用基準は平成20年1月21日時点のものです。使用前にラベルをよく読み安全基準を守りましょう。